



ふくおか  
ものづくり補助金  
成果事例集

## 新型マシニングセンタの導入による加工品目の多角化

新型の立型マシニングセンタ（以下、「MC」という）をオプション付きで導入することで、生産力の強化と生産性の向上を図りました。今回のMCはダイス鋼の加工にも適しており、顧客開拓への貢献も期待されています。



新しいMCは仕事の幅を広げた

### PICKUP STORY

#### 受注回復を受け設備投資

丸憲製作所は、アルミニウムを得意とする加工メーカーで、半導体製造装置向け部品などを製作しています。リーマン・ショックで落ち込んだ受注が回復してきたことなどから設備投資に踏み切りました。

#### 設備投資のタイミングで補助金活用

ものづくり補助金を同社が知ったのは地元商工会などの紹介で、機械メーカーや機械を扱う商社からも、その存在は聞いていました。当時は、導入してから20年以上経つ設備なども現役として使われており、受注増への対応だけでなく、次の設備投資を考えるべき時期でもありました。

補助金を活用して新たに導入した立型MCは金型部品などに使われるダイス鋼の加工にも適しています。同分野の加工実績はまだまだ



同社はアルミ加工を得意とする

## 新たなマシニングセンタ導入で生産全体に好影響

ですが今後の期待分野と言えます。

#### 段取り時間の短縮に貢献

新たな設備の導入で加工能力は1割ほどアップしました。同社は近年、受注量の増加傾向への対応を課題としていました。もし、ものづくり補助金がなければ「対応が遅れただろう」と小屋根専務は話します。加工能力を高めたことは取引業者の口コミでも広がっています。最新設備の存在は、同社への信頼感を高めることにもつながっています。

さらにパレットチェンジャー付きの設備導入は機械にかかわる作業が減り、段取り時間の短縮になりました。納期の短縮には、機械の回らない時間をいかに短くするかが重要で、その面でも設備が貢献



「加工体制を見直すきっかけになった」と語る小屋根さん



最新設備は納期の短縮にも貢献

しています。時間的な余裕ができたことで残業が減り、有給休暇の取得促進にもなり、従業員のためにもなりました。

#### POINT

##### ● 補助金活用 ここがポイント ●

機械の特性に合わせて生産を見直し

導入する機械の選定では使い慣れた既存機械と同じメーカーの製品を選びました。加工プログラムもスムーズに行き、素早く生産を軌道に乗せています。設備の導入は従来のアルミ加工を含め、会社全体の加工体制について見直すきっかけになりました。機械それぞれの特性に合わせて、剛性を重視した方が良いのか、速さを重視した方が良いのかなどを判断し最適化しています。

#### COLUMN

### 将来は医療や航空分野へ

#### Q1 生産能力が高まったことで次の展開は

生産量が増えれば不良率は変わらなくても不良品の数が増えてしまいます。それを誤って出荷しないための検査体制の強化が課題で、新たな検査装置が欲しいところです。

#### Q2 今後の抱負は

難削材の加工による医療や航空分野の受注も視野にあります。組織体制の強化も考えています。現在の納入先は九州内がほとんどですが福岡県内の割合をもっと大きくしたい考えです。

#### DATA

### 有限会社 丸憲製作所



**代表者** 代表取締役 小屋根 憲昭  
**所在地** 〒822-1212 福岡県田川郡福智町 弁城3853-3  
**TEL** 0947-22-5705  
**FAX** 0947-22-3564  
**e-mail** maruken@violin.ocn.ne.jp  
**事業内容** 機械加工

**資本金** 1000万円  
**設立** 1973年（昭48）  
**従業員数** 15人

